

19 番	三木 雪実 議員		
項目	1 伊藤市長の1期目、4年間を振り返って	項目	2 一つめの都市像『活力ある地域経済と豊かな暮らしを実感できるまち』について
<p>(要旨)</p> <p>① 数多のmanifestoを掲げられ、理想を持って市政に当たられたと思うが、その達成度をご自身でどう評価されているか。</p> <p>② 第6次総合計画のスタートを1年先送りし、ご自身の思いもそこに込められたものと思うが、目指す3つの都市像の実現に向けたキックオフの2年をどう評価しているか。</p>		<p>(要旨)</p> <p>① 市長が強調する「未来への投資」とは、どのような瀬戸市の未来像を思い描いてのことか。</p> <p>② 企業誘致について、直近では品川ゴルフ場跡地の誘致が喫緊の課題であるが、これに続く取組みについてどのように考えているか。</p> <p>③ そのなかの一つがツクリテやクリエイターの支援とされているが、今後企業誘致などを進める中で、業界とのマッチングという視点が欠けているのではないかと考えるが、新たな切り口としてどのように取り組むのか。</p> <p>④ 起業・創業を支援するためにはインキュベーション施設の提供や長期的な視点での補助も必要ではないかと考えるがいかがか。</p> <p>⑤ シティプロモーションについて、6次総の中では「ブランディング」と表現がされていた施策、事業だと思うが、これまでもさまざまな取組みがなされてきた。今後さらにPR効果を挙げ、シビックプライドを醸成するために新味がありかつ大胆な取組みが求められると考えるがいかがか。</p>	

19番		三木 雪実 議員	
項目	3 都市像の二つめ『安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまち』について	項目	
<p>(要旨)</p> <p>① 市長は大綱の中で、市内企業の成長につながる設備投資や人材確保などに対する支援を約束されているが、人材確保の点からみれば女性の社会進出は重要不可欠な視点であり、そのために保育サービスの充実を謳われているものとする。しかしながら市内民間保育園の実態は、報酬の程度や職場環境の未整備から保育士が他市へどんどん流出し、定員数を減らしている保育園もある。この現実をどう克服し、保育士不足にどう対応していくのか伺う。</p> <p>② 子育て総合支援センターの役割として妊娠期・0歳から18歳までの子どもと子育てに関する総合相談を受けるとしているが、不登校やひきこもりなど、困難を抱える子どもについては学校や各セクションとの連携が重要となると考えるが、どのように横串を刺していけるのか伺う。</p> <p>③ 昨今、児童虐待により小さな命が奪われるなど、悲惨な状況も生まれており、大きな社会問題となっている。地方自治体としても児童虐待の根絶、心のケアなどの対策に積極的に取り組むべきと考えるがいかがか。</p>		<p>④ 次に小中一貫校「にじの丘学園」は、市内はもとより全国のトップランナーとしてモデルになるべき学校と考える。そのためにはカリキュラム、通学時の安全対策といった重要課題をクリアしなければならないが、開校を一年後に控えた今もってその課題解決に向けた具体案が示されておらず、保護者の不安は増すばかりとなっている。このような状況では「小中一貫教育」の全市展開にも現実味が感じられない。今後どのような方針、スケジュールでこれらに取り組むのか考えを伺う。</p> <p>⑤ 現代の教育は、経済的な理由による教育格差が問題となっている。全市的に小中一貫教育を展開する場合、これらの解消にも努めていかねば公平な教育が担保できない恐れがある。この課題にどう取り組んでいけるのか、いかに格差を解消していけるのかお考えを伺う。</p> <p>⑥ 小中一貫教育の導入という瀬戸市教育行政の大転換点において、市はどのような姿勢で、また意気込みで取り組もうとされているのか、あらためて伺う。</p>	

19番		三木 雪実 議員	
項目	3 都市像の二つめ『安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまち』について	項目	
<p>(要旨)</p> <p>⑦ この都市像の中で、「活力ある地域経済によって市民の皆さんに利便性をもたらし、心の豊かさが実感できるような都市機能の強化を図っていく」とされています。そこで、中水野駅周辺でのまちづくりについては、都市計画マスタープランに掲げる多極ネットワーク型コンパクトシティ構造への転換に向けた足がかりとなる重要な事業であると考えます。その手法については組合施行での区画整理事業と伺っているがご見解は。今後、数十年先の効率的な都市経営を見据えたとき、多極ネットワーク型コンパクトシティ構造への転換は不可欠であるが、既存の都市インフラや住宅が存在するため、事業費そのものが嵩む傾向があり、地元にはどうしても不安がつかまとう。地域の機運を高め、その負担を軽減するなど、不安解消にむけた対策についてどのようなお考えか見解を伺う。さらに、公共交通を基軸としたまちづくりについては、交通結節点としての機能と併せ、まちづくりのコアとしての公共施設や都市機能をいかに効果的に誘導し、まちの魅力を高めていくかが重要と考える。コンパクトシティの実現に向けて配置計画の立案も含め、今後の施策展開についての見解を伺う。</p>		<p>(要旨)</p> <p>⑧ 次に小中一貫校開設に伴う学校跡地利用について伺う。学校跡地の利用についてはすでに市としての方針として一部売却という案も示されている。これについてはひとつのたたき台としての案であると承知しているが、地域住民には突然の案であり、既定路線のように受け止められており、困惑も広がっている。これを今一度整理するために、地域のまちづくりの方向性をしっかり打ち出すことが重要で、それに伴い地域住民とも対話を重ねながら、新しいまちづくりの方向性に沿った学校跡地利用を考えていくべきではないかと考えるがいかがか。</p>	

19番		三木 雪実 議員	
項目	4 三つめの都市像『地域に住まう市民が自立し支え合い、笑顔あふれるまち』について	項目	5 財政運営について
<p>(要旨)</p> <p>① 地域包括ケアシステム構築については、医療、介護、健康づくり、いきがいの提供などさまざまな視点からの取組みが必要となり、一朝一夕に成しえるものではないと考える。各分野の関係者はもとより、地域住民の深い理解と協力が不可欠であるが、どのように進めていかれるのか伺う。</p> <p>② 次に環境については、尾張東部衛生組合のゴミ焼却場の老朽化により、施設の延命と近い将来に予測される更新についてはどのような考え方、方針で臨もうとされているのか。併せてゴミの減量化の積極的な推進も課題となっているが、これについてどのように取り組んでいかれるのか伺う。</p> <p>③ 市は安心安全のまちづくりに向けて、年に一度の総合防災訓練を続けてきたが、災害危機が間近に迫っているとされる現在、さらに実効性のある訓練を模索し、行うべきと考えるがいかがか。</p> <p>④ 地震、風水害などの対策に万全を期すことは当然ながら、住民の生命や財産に関わる犯罪対策、交通安全も含めた総合的な安心安全対策が必要と考えるがどのような見解か伺う。</p>		<p>(要旨)</p> <p>① 今後公共施設等総合管理計画にのっとり、公共施設の建て替えや改修が本格的に始まる。相当な支出が予想されるが、新しい財政規律も踏まえ運営の舵取りをどのように進めていかれるのか伺う。また、市長は民間の資金やノウハウを活用して政策コストの削減を進めるとされている。将来に向け、公債費負担を抑えるためにも必要不可欠とされ、PFI、PPPなどの導入も視野に入れていると考えるがプロジェクトチームの立ち上げも含め、どのように検討されているのか。</p>	